小腸の機能障害の状況及び所見

|  |
| --- |
| 　身長　　　　　㎝　　体重　　　　　　㎏　　体重減少率　　　　　％　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(観察期間　　　　　　　　　　)**1　小腸切断の場合**　　(1)　手術所見　0457015切断小腸の部位　　　　　　　　，長さ　　　　　　㎝0457015残存小腸の部位　　　　　　　　，長さ　　　　　　㎝　　　＜手術施行医療機関名　(できれば手術記録の写しを添付する。)＞　　(2)　小腸造影所見((1)が不明のときは，小腸造影の写しを添付する。)　　　　推定残存小腸の長さ，その他の所見**2　小腸疾患の場合**　　病変部位，範囲，その他の参考となる所見　　注　1及び2が併存する場合はその旨を併記すること。　 〔参考図示〕0457014　　**3　栄養維持の方法**(該当項目に○をする。)　(1)　中心静脈栄養法　　　ア　開始日　　　　　　　　年　　月　　日　　　イ　カテーテル留置部位　　　 　　　　　　　　　　　　　　ウ　装具の種類　　　　　　　　　　　　　　　　　　エ　最近6か月間の実施状況　　　(最近6か月間に　　日間)　　　オ　療法の連続性　　　 (持続的・間歇的)カ　熱量　　 (1日当たり　　　　kcal)　　　　(2)　経腸栄養法　　　ア　開始日　　　　　　　　年　　月　　日　　　イ　カテーテル留置部位　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ウ　最近6か月間の実施状況　　　(最近6か月間に　　日間)　　　エ　療法の連続性　　　 (持続的・間歇的)　　　オ　熱量　 　(1日当たり　　　　kcal)　　(3)　経口摂取　　　ア　摂取の状態　　(普通食・軟食・流動食・低残渣食)　　　イ　摂取量 　(普通量・中等量・少量)**4　便の性状**　　(下痢・軟便・正常)，排便回数(1日　 　回)**5　検査所見(**測定日　　　　年　　月　　日)　 赤血球数　 　　 ／mm3， 血色素量　　 　g／dl血清総蛋白濃度　 　 g／dl，血清アルブミン濃度　　　 g／dl血清総コレステロール濃度　　 mg／dl， 中性脂肪　　 mg／dl　 血清ナトリウム濃度　 　 mEq／l， 血清カリウム濃度　　 mEq／l　 血清クロール濃度　 　 mEq／l， 血清マグネシウム濃度　　 mEq／l　 血清カルシウム濃度　　 mEq／l |

注　１ 手術時の残存腸管の長さは，腸間膜附着部の距離をいう。

　　２ 中心静脈栄養法及び経腸栄養法による1日当たりの熱量は，1週間の平均値によるものとする。

　　３　「経腸栄養法」とは，経管により成分栄養を与える方法をいう。

　　４　小腸切断(等級表1級又は3級に該当する大量切断の場合を除く。)又は小腸疾患による小腸機能障害の障害程度については，再認定を要する。

　　５ 障害認定の時期は，小腸大量切除の場合は手術時をもって行うものとし，それ以外の小腸機能障害の場合は6か月の観察期間を経て行うものとする。

　６ 用紙の大きさは，日本工業規格A列4とする。